

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月15日現在

機関番号：55401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2011

課題番号：21520309

研究課題名（和文）イヴの救済をめざして：聖アウグスティヌスと初期近代ヨーロッパにおける聖書再解釈

研究課題名（英文）Salvation of Eve : St. Augustine and Reinterpretation of the Bible in Early Modern Europe

研究代表者

竹山 友子 (TAKEYAMA TOMOKO)

呉工業高等専門学校・人文社会系分野・准教授

研究者番号：90462142

研究成果の概要（和文）：

初期近代の女性作家による様々な著作に表出される聖書の書き換え行為に着目し、その書き換えが聖アウグスティヌスの聖書解釈に依拠または影響を受けていることを、作品の内外から検証した。対象作品は宗教的な作品だけでなく、室内劇や翻訳作品も含めている。そして聖アウグスティヌスの聖書注解に基づいた新たな聖書解釈による男女平等思想が初期近代に徐々に広まってきたこと、複数の女性作家がその思想を利用し、様々な作品形態で聖書の書き換え行為を行ってイヴの原罪から女性を救済しようと試みていることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

This research has targeted at “re-” interpretation of the Bible in the various types of writings by some early modern female writers. Through examining the texts and contexts, it has become highly possible that their interpretations are dependent on or influenced by the expositions of the Bible by St. Augustine to some degree. The objects of this study include not only biblical writings but also closet dramas and translating works. The research shows that the egalitarian ideas based on reinterpretation of the Bible, which originated from St. Augustine’s expositions, became gradually widespread in early modern Europe. It has become clear that these female writers have made use of such egalitarian ideas in their interpretations and tried to exempt women from the original sin.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、英米・英語圏文学

キーワード：英語圏文学、聖書解釈

1. 研究開始当初の背景

本研究は「作家による聖書の書き換えの試

みと聖アウグスティヌスの再解釈との関係」を主題に、作品の特徴とその手法、執筆背景、

一連の聖書書き換えの試みが社会に与えた影響等を明らかにしていくことであるが、このような研究はこれまで文学では十分にはなされていなかった。

宗教学においては feminist theology (フェミニスト神学) という言葉の存在が示すように、女性の視点から聖書を読み直す研究がなされている。Elaine Pagels による *Adam, Eve, and the Serpent* (New York: Random House, 1988) などがこれに当たる。このような著作は宗教学者の視点から書かれているため、対象となるテキストは聖書あるいはキリスト教教父が書いた著作が中心で、それらをもとに現代の批評家による聖書の読み直し作業を行うといった位置づけである。

また、歴史学においては Gerda Lerner の *The Creation of Feminist Consciousness* (Oxford, Oxford UP, 1993) が中世以降の再解釈の流れを詳細に述べているが、対象テキストについては簡単な記述にとどまっている。

文学研究においては歴史実証主義によって多少の研究が始まっているが、その中心は主に 15 世紀以降にヨーロッパで生じた女性論争を中心に女性擁護論者による聖書の書き換えを論ずるものである (Katherine Usher Henderson and Barbara F. McManus, *Half Humankind: Contexts and Texts of the Controversy about Women in England, 1540-1640* (Urbana: U of Illinois P, 1985) など)。

これまでの研究により、英国においては 17 世紀前半に中流階級の女性達が女性論争に加わり、その中で聖書の書き換え行為が行われていたことがわかっている。本研究はさらに貴族階級の女性および英国以外の他のヨーロッパ諸国の女性作家の作品も研究対象に含め、女性作家の行為が中世初期の聖アウグスティヌスから始まる聖書再解釈の伝統の系譜であることを明らかにする必要があると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、「作家による聖書の書き換えの試みと聖アウグスティヌスの再解釈との関係」を主題に、女性作家の著作および翻訳作品の特徴とその手法、執筆背景、彼女たちの聖書書き換えの試みが当時の社会や後世に与えた影響等を明らかにすることを目的としている。

これまで聖書の書き換え行為と聖アウグスティヌスの関係はあまり論じられていなかったが、本研究では女性作家による聖書の書き換え行為や過去に別の作家によって書き換えられた思想の領有行為と、聖アウグス

ティヌスとの関係を探る。これまでの feminist theology との違いは、文学研究により対象テキストの範囲が広がることである。聖書に関する著作だけでなく、初期近代の女性にとって許容活動範囲内であった「翻訳」作品も対象に含めることができる。また同時に、一見聖書とは関連がないと思われる詩・劇などの文学作品も研究対象に取り入れることができる。さらには単なる言葉の書き換えだけでなく、その手法(書き方)に着目して考察することも可能である。

このように文学研究の視点から特に初期近代英国で文化人として著名であったペンブルック伯爵夫人の Mary Sidney Herbert による聖書の書き換えの試みや、Mary Sidney の影響を受けた Aemilia Lanyer 等の作品を研究し、さらには英国の女性作家に影響を与えたと思われる他のヨーロッパ諸国の女性作家の作品を読み、これらの作品における聖アウグスティヌスの聖書解釈との関連を考察し、その影響度および影響を与えるに至った要因を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 聖アウグスティヌスの *Expositions on the Psalms*、Mary Sidney Herbert の詩編翻訳 *The Psalms* (1599 頃)、Christine de Pizan の *The Book of the City of Ladies* (1404-05) と Isotta Nogarola の *Dialogue on Adam and Eve* (1451-53)、Aemilia Lanyer の *Salve Deus Rex Judaeorum* (1611) などにおける聖書の書き換え部分の分析。

(2) 上記女性作家の作品と、同時代に出版された Geneva Bible (ジュネーブ聖書)、Bishop Bible (主教聖書)、*Commentary on the Book of Psalms by John Calvin* (カルヴァンの詩編注釈) などの聖書翻訳や注解との比較分析。

(3) 14 世紀から 16 世紀のヨーロッパでなされた聖書再解釈による男女平等思想と、16 世紀以降英国で活発になった聖書再解釈による男女平等思想との関連を明らかにするため、歴史的な資料の分析による執筆背景などの研究。特に女性論争に関係する作品(戯曲、詩集、パンフレット)とその作家の研究。

4. 研究成果

(1) Aemilia Lanyer が聖書の記述内容を女性の視点で書き換えて詩集を執筆しているこ

とが明らかとなっている。その詩集を献呈された Mary Sidney Herbert が 1590 年代後半に発表した詩編翻訳を研究した結果、複数の詩編にジェンダー的改変がなされていることが明らかとなった。これらの改変は、Lanyer 同様にエリザベス 1 世を意識して行われた可能性が非常に高い。

改変に際して取捨選択された語句を精査すると、明らかに意図的に改変が行われていると思われる箇所が存在する。特に不正な裁き人を糾弾する第 58 編と第 82 編では、聖アウグスティヌスの詩編注解だけでなく Mary と同時代の 16 世紀に出版されたカヴァーデル英訳の詩編、ジュネーヴ聖書、主教聖書、カルヴァンの詩編注釈等と比較検討した結果、詩形や韻律だけが理由とは考えにくい改変が顕著である。

Mary Sidney の翻訳では他の翻訳や注釈が用いた表現を使わず、別の表現にあえて置き換えていると思われる箇所が存在する。それらの場面を精査すると、女性と罪が結びついている部分はその強度が弱まり、逆に男性と罪が結びつく場面はあえて強調していると思われる。それとともに、明らかに使用を避けたと思われる語句の存在も明らかとなった。そのような改変箇所を指摘した上で、詩集に付された女王への献呈詩の内容、執筆背景や発表方法を調査して改変理由を考察した。その結果、エリザベス 1 世を称揚する目的で改変がなされた可能性が高いこと、改変の目的は女王の性である女性全体を原罪から救済することである可能性を指摘した。

(2) 16 世紀末および 17 世紀前半の演劇作品を考察することにより、初期近代英国における聖書再解釈の背景を探った。特に妻の不貞を題材に扱った *A Woman Killed with Kindness* と *The Tragedy of Master Arden of Faversham* に注目し、男女関係、特に一般的な解釈ではアダムとイヴの関係のように、妻の逸脱行為が悲劇の原因と考えられている演劇を取り上げ、プロテスタントの結婚観と照らし合わせて考察した論文を発表した。これにより、聖書に記述されている規範的な男女観および結婚観と、作品中における男女観および結婚観との比較検討を行った。そして男女の登場人物がともにプロテスタントの規範的な男女観を逸脱したことが悲劇を招くという意味において、両作品が教訓的な劇であることを明らかにした。

(3) 17 世紀前半に出版された Elizabeth Cary の室内劇 *The Tragedie of Mariam*(1613) とそ

の原案である『ユダヤ古代誌』を比較検討し、改変箇所に出される思想が、初期近代に流行したストア主義復興運動、つまりキリスト教とストア主義の融合を目指した新ストア主義であることを明らかにした。本作品は聖書の直接的な書き換えではなく、古代ユダヤの史実の書き換えであるが、主人公を王から女性である王妃に変えたこと、王(夫)の専制君主・独裁者としてのイメージを強調したこと、そして最終的に主人公にキリストのイメージを付与する書き換えを行ったことなどから、一連の聖書の書き換え行為と共通する点が多い。そしてこの書き換えによって、異教の物語をキリスト教的な作品へと変化させるとともに、キリストの教えに基づく救済が、主人公の女性像に投影されていることを指摘した。さらに執筆背景を考察し、本作品が宮廷および家庭において男性への説諭の働きをしていることを明らかにした。

(4) これまで行った研究から、Christine de Pizan の *The Book of the City of Ladies* および Isotta Nogarola の *Dialogue on Adam and Eve* の作品において、14 世紀から 16 世紀のヨーロッパでなされた聖書再解釈による男女平等思想が聖アウグスティヌスの聖書注解の影響を受けている可能性が高いことが判明している。今後はそれらに関する論文発表を行いたい。また、Aemilia Lanyer と Mary Sidney Herbert の作品の比較研究を中心に、16 世紀以降英国で活発になった聖書再解釈による男女平等思想と聖アウグスティヌスとの関係を明らかにしていく。そして聖アウグスティヌスの影響を受けたヨーロッパ(大陸)の平等思想が、英国へ伝播した経緯や各テキストの相関関係を調査する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

- ① 竹山友子、Danger in Homosociality: *A Woman Killed with Kindness* and *Arden of Faversham* as Protestant Moral Plays, *PHOENIX*, 査読有、69 号、2010、pp. 1-15.

[学会発表] (計 1 件)

- ① 竹山友子、メアリー・シドニー訳 *Psalms* における罪と女性—Psalm58 を中心に、日本英文学会中国四国支部第 63 回大会、

2010年10月30日、四国大学。

〔図書〕(計3件)

- ① 竹山友子、関西学院大学出版会、‘Our
beeing your equals, free from
tyranny’: Female Appropriation of
Stoicism, Christian Humanism and
Neostoicism in Writings by Aemilia
Lanyer and Elizabeth Cary, 2011, 269.

- ② 竹山友子、他、金星堂、十七世紀英文学
と科学、2010、272 (pp.205~226)。

- ③ 竹山友子、他、音羽書房鶴見書店、英文
学の地平—テキスト・人間・文化、2009、
482 (pp.322~341)。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

竹山 友子 (TAKEYAMA TOMOKO)

呉工業高等専門学校・人文社会系分野・准
教授

研究者番号：90462142